

災害の概況

(平成23年)



鳥取県西部広域行政管理組合
消防局

目 次

(ページ数)

災害概況について	1
I 火災概況	3
1 火災の現況と最近の動向	3
別図 I - 1 火災件数の推移と傾向図	3
別表 I - 1 火災総括表	4
2 出火状況	5
別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率	5
別表 I - 2 季節別件数と損害額	5
別図 I - 3 月別の火災種別ごと出火件数	6
3 火災による死傷者の状況	6
別表 I - 3 月別の火災による死傷者発生状況	7
別図 I - 4 時間帯別における建物火災発生状況及び死傷者の発生状況	7
4 出火原因	8
別図 I - 5 火災種別ごとの主な火災原因	8
別表 I - 4 市町村別火災状況	9
別表 I - 5 過去5年間の市町村別火災件数	10
II 救急概況	11
1 救急出動件数、救急搬送状況	11
2 市町村別救急活動状況	11
3 傷病程度別搬送状況	11
4 年齢別搬送状況	11
5 署所別救急活動状況	11
6 月別救急活動状況	11
7 現場到着所要時間、収容所要時間	11
8 応急手当実施状況	11
9 高度救命処置状況	11
10 救急講習件数の推移	11
11 市町村別救急活動の推移	11
別図 II - 1 事故種別救急出動状況	12
別図 II - 2 事故種別救急搬送状況	12
別図 II - 3 過去5年間の救急推移	13
別図 II - 4 市町村別救急活動状況	13
別図 II - 5 傷病程度別搬送状況	14
別図 II - 6 年齢別搬送状況	14
別図 II - 7 署所別救急活動状況	15
別図 II - 8 月別救急活動状況	15

別図Ⅱ－ 9	現場到着所要時間	16
別図Ⅱ－10	収容所要時間	16
別図Ⅱ－11	応急手当実施状況	17
別図Ⅱ－12	高度救命処置状況	17
別図Ⅱ－13	医師引き継ぎ時の状況	17
別図Ⅱ－14	過去5年間の救急講習件数推移	18
別図Ⅱ－15	過去5年間の救急講習人員推移	18
別表Ⅱ－ 1	応急手当指導員・普及員の養成	18
別表Ⅱ－ 2	過去5年間の市町村別救急件数	19
Ⅲ	救助概況	20
1	事故種別救助出動状況	20
2	事故種別救助活動状況	20
3	事故種別救助人員状況	20
4	管轄別救助活動状況	20
5	市町村別救助活動状況	20
6	月別救助活動状況	20
別図Ⅲ－ 1	事故種別救助出動状況	21
別図Ⅲ－ 2	事故種別救助活動状況	21
別図Ⅲ－ 3	事故種別救助人員状況	22
別図Ⅲ－ 4	管轄別救助活動状況	22
別図Ⅲ－ 5	市町村別救助活動状況	23
別図Ⅲ－ 6	月別救助活動状況	23
Ⅳ	119番着信概況	24
1	着信件数の推移	24
2	月別の着信状況	24
3	電話種別による通報状況	24
4	携帯電話からの着信状況	24
5	時間帯別119番通報の着信状況	24
別表Ⅳ－ 1	119番着信件数の推移	25
別表Ⅳ－ 2	月別119番着信状況	25
別表Ⅳ－ 3	電話種別による119番着信件数の推移	26
別表Ⅳ－ 4	電話種別による通報状況	26
別表Ⅳ－ 5	携帯電話からの着信状況	27
別表Ⅳ－ 6	携帯電話の消防機関別転送状況	27
別図Ⅳ－ 7	時間帯別着信状況	27

災害概況について

I 火災概況

平成23年中の火災件数は、前年に比べ約4割増加し107件で、西部広域消防発足以来最も少ない火災件数を記録した昨年より31件の増加となりました。

昨年に比べ、建物火災が13件、林野火災とその他火災をあわせた火災が11件増加しています。本年は昨年に比べ春先の雨量が少なく、比較的穏やかな天候が続いた為に林野火災とその他火災が増加したものと考えられます。

火災件数は前年に比べ31件増加しましたが、焼損床面積は1,450㎡減少しています。これは、昨年発生したような大きな工場の火災がなかったことによるものです。

焼損床面積の減少に伴い、火災1件当たりの損害額、焼損床面積とも昨年に比べ減少しています。

火災による死者は7人で、前年より3人増加しています。7人のうち6人が建物火災によるもので、このうち多く発生している時間帯は、就寝時間である深夜の1時から早朝の6時までの5人で、2人は65歳以上の高齢者、2人が10歳以下です。死亡に至った原因としては、7人のうち4人が逃げ遅れ、放火自殺2人、その他不明が1人です。

火災による負傷者は13人で、このうち8人が65歳以上の高齢者で、受傷の経過は消火中が7人、避難中が4人、就寝中、その他がそれぞれ1人となっています。

今後、就寝中に発生した火災を早期に発見し早期避難ができるよう、前年に引き続き住宅用火災警報器の設置を促進し、住民に対する火災防止の啓発活動を行うと共に、万一火災が発生した場合に延焼拡大を防ぐための防災製品の普及、初期消火のための住宅用消火器の紹介をしていくことが重要と考えます。

II 救急概況

救急出動件数は9,828件(853件の増・+9.5%)で、救急搬送人数は9,221人(726人の増・+8.5%)で、過去最多となっています。

事故種別ごとの出動件数は、急病が6,022件(61.3%)と半数以上を占め、次いで一般負傷1,281件(13.0%)、転院搬送1,212件(12.3%)、交通事故868件(9.5%)の順となっています。

年齢別の搬送人数は、65歳以上の高齢者が5,336人(57.9%)と全搬送人数に占め、今後も少子高齢化の進展に伴い更に割合が増加することが予測されます。

心肺停止傷病者に対して、家族等による応急手当の割合が51%となっています。救急現場での早期の応急手当が救命のチャンスを拡大しますので、住民への心肺蘇生法の普及やAEDの設置拡大が不可欠です。

Ⅲ 救助概要

救助出動件数は159件（4件の増・+2.6%）、救助活動件数は106件（12件の減・-10.2%）となっています。また、救助人員は86人（25人の減・-22.5%）です。

事故種別毎の救助出動件数を見ると、交通事故が65件（40.9%）と最も多く、次いで火災が38件（23.9%）、その他の事故が22件（13.8%）、水難事故が13件（8.2%）、風水害の事故が12件（7.5%）建物等による事故が6件（3.8%）、機械による事故が3件（1.9%）となっています。

救助人員では交通事故が最も多く41人（47.7%）、次いでその他15人（17.4%）、風水害の事故が11人（12.8%）、水難事故と火災が7人（8.1%）の順となっています。

3月11日未曾有の東日本大震災を経験し、大規模災害時には、県内外の消防機関、医療機関、防災機関、国、県、市町村などの迅速な連携活動の重要性が改めて確認されたところです。

Ⅳ 119番着信状況

平成23年の総着信件数は13,715件（993件の増・+7.8%）あり、平成17年をピークに減少傾向となっていました。通報種別毎にみると、間違い（76件の減・-9.8%）、訓練等の通報（11件の減・-0.6%）は減少しましたが、逆に火災通報（141件の増・+88.6%）、悪戯通報（55件増・+51.4%）、救急通報（772件増・+8.9%）などが大きく増加しています。電話種別による着信状況は、固定電話が7,001件（34件増・+0.4%）、IP電話が2,557件（510件増・+24.9%）、携帯電話が4,157件（449件増・+12.1%）となっています。

問い合わせや悪戯等を除く災害通報は9,908件で、このうち固定電話（IP電話を含む）が7,077件（71.4%）、携帯電話が2,831件（28.6%）となっています。また、事故種別ごとに携帯電話による通報が占める割合は、火災通報が160件（53.3%）、救急通報が2,574件（27.3%）、救助通報が34件（59.6%）、警戒通報が63件（54.3%）となっています。

火災、救助、警戒が救急に比べ、携帯電話による通報比率が高くなっており、屋外で発見される場合の多い交通事故等や火災、たき火といった多くの人の目につきやすいものと、急病など屋内で発生することの多い救急との違いが現れています。

携帯電話からの通報時に、発信された位置情報を取り込む「携帯電話の位置情報通知システム」の導入と、今後、正確な位置情報を発信できるGPS機能付き携帯電話の普及に伴い、その機能が更に発揮され迅速な出動指令が行われるものと考えています。

I 火災概況

(平成23年1月～12月)

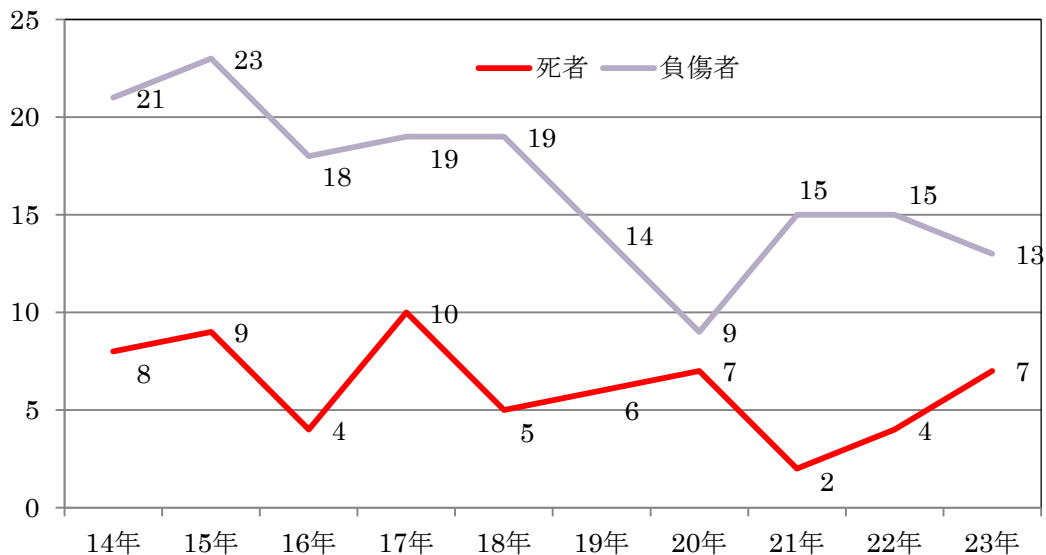
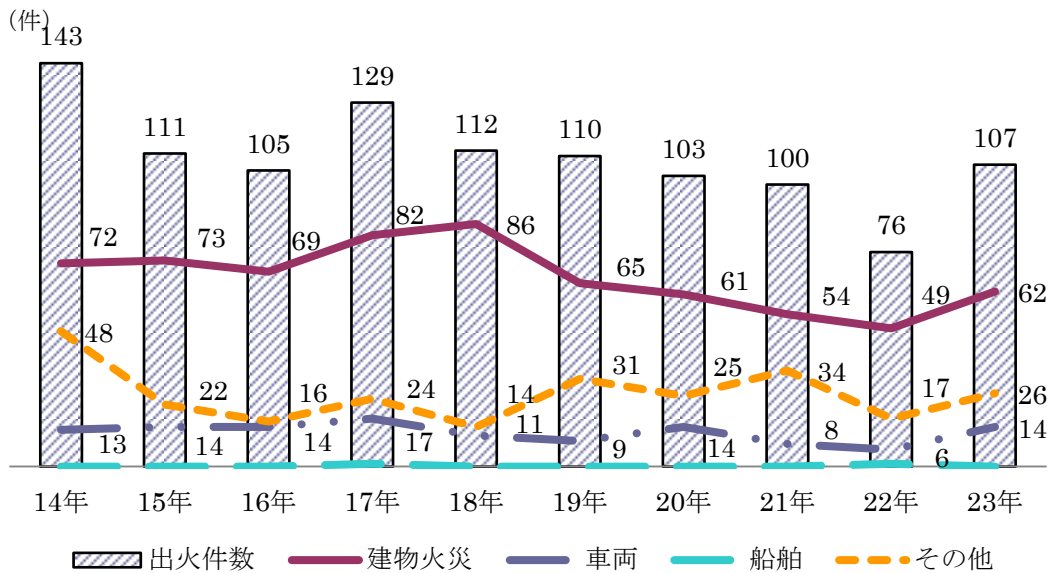
1 火災の現況と最近の動向

この10年間の出火件数をみると、年間平均出火件数は109.9件で、143件を記録した平成14年以降おおむね平均値に近い件数で推移し、前年は最も少ない76件でした。

平成23年中の火災件数は107件と前年に比べ31件(40.8%)増加しましたが、10年前の(平成14年中の出火件数)の74.8%となっています。

また、火災による死者数は過去10年間の年間平均は6.2人で、平成17年に10人の最多を記録した後、平成21年には2人まで減少しましたが、平成23年は7人の死者が発生し前年に比べ3人(75%)増加しています(別図I-1、別表I-1参照)。

別図I-1 火災の推移と傾向図



別表 I - 1 火災総括表

区 分	平成14年	平成22年 (A)	平成23年 (B)	増減 (B) - (A) (C)	増減率 (C)/(A) ×100 (%)	
出火件数 (件)	143	76	107	31	41	
建物火災	72	49	62	13	27	
林野火災	10	3	5	2	67	
車両火災	13	6	14	8	133	
船舶火災	0	1	0	△ 1	△ 100	
その他火災	48	17	26	9	53	
焼損棟数 (棟)	105	87	101	14	16	
全焼	33	29	33	4	14	
半焼	5	6	10	4	67	
部分焼	40	28	33	5	18	
ぼや	27	24	25	1	4	
建物焼損床面積 (㎡)	4,364	6,947	5,497	△ 1,450	△ 21	
建物焼損表面積 (㎡)	140	156	175	19	12	
林野焼損表面積 (a)	453	9	21	12	133	
死者 (人)	8	4	7	3	75	
負傷者 (人)	21	15	13	△ 2	△ 13	
り災世帯数 (世帯)	66	37	52	15	41	
全損	17	14	11	△ 3	△ 21	
半損	2	1	7	6	600	
小損	47	22	34	12	55	
り災人員 (人)	207	85	146	61	72	
損害額 (千円)	261,812	187,017	207,316	20,299	11	
建物火災	252,724	184,933	196,727	11,794	6	
林野火災	1,638	18	462	444	2467	
車両火災	6,538	1,940	9,914	7974	411	
船舶火災	0	15	0	△ 15	△ 100	
その他火災	912	111	213	102	92	
1件当り 損害額 (千円)	火災全体	1,831	2,461	1,938	△ 523	△ 21
	建物火災	3,510	3,774	3,173	△ 601	△ 16
1件当り 焼損面積	建物 (㎡)	61	142	89	△ 53	△ 37
	林野 (a)	45	3	4	1	40
出火率 (件/万人)	5	3	4	1	—	

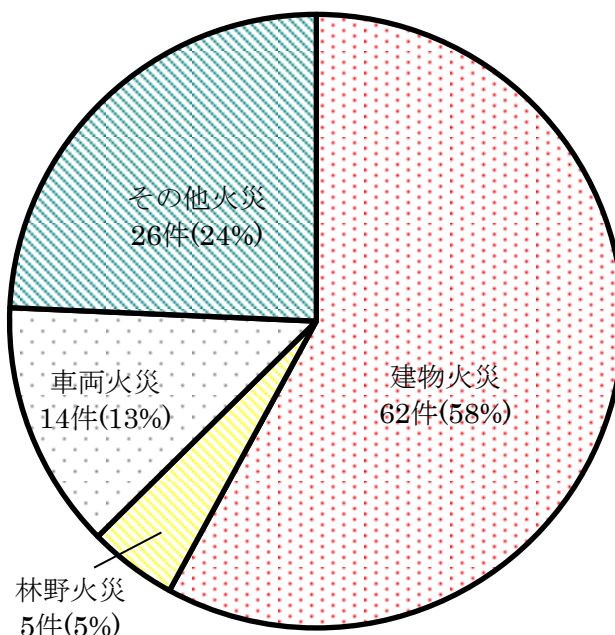
(備考)

- 1 各年の数値は、1月～12月に発生した火災を集計したものの。
- 2 「建物火災」とは、建物またはその収容物が焼損した火災をいう。
- 3 「林野火災」とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
- 4 「車両火災」とは、自動車車両、鉄道車両及び被けん引車又はこれの積載物が焼損した火災をいう。
- 5 「船舶火災」とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
- 6 「その他火災」とは、建物火災、林野火災、車両火災及び船舶火災以外の火災（空地、田畑、道路、河川敷、ごみ集積場、屋外物品集積所、軌道敷、電柱類の火災）をいう。
- 7 死者には、火災により負傷した後、48時間以内に死亡した者を含む。
- 8 出火率とは、人口1万人当たりの出火件数をいう。
- 9 △は負数を表す。

2 出火状況

(1) 建物火災は火災全体の58%
平成23年中の総出火件数107件について、その構成比率をみると建物火災が全火災の58%で最も高い比率を占め、その次にその他火災となっています(別図I-2参照)。

別図I-2 火災種別ごとの件数と構成比率



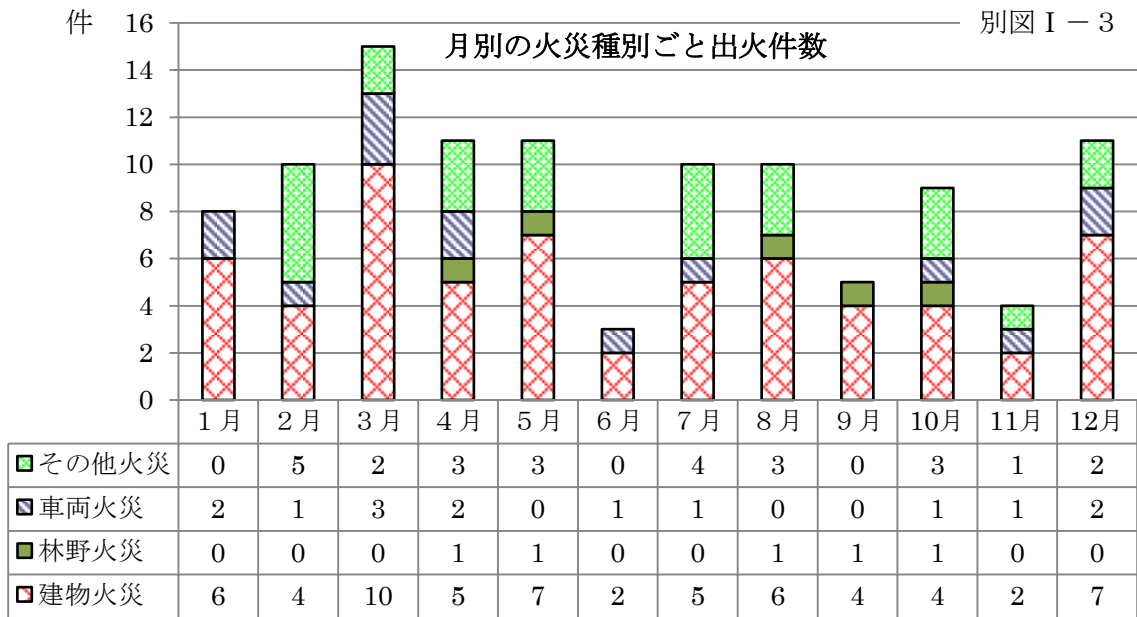
(2) 建物火災1件当たりの損額、焼損面積は減少
平成23年中の建物火災の1件当たりの損害額は前年比15.9%減少し、焼損面積も前年比37.5%の減少となっています(別表I-1参照)。

別表I-2 季節別件数と損害額

(3) 建物火災は冬季・春季に多く、損害も多い
平成23年中の建物火災について四季別にみると、火気を使用する機会が多い冬季から秋季にかけての出火件数は39件(62.9%)となっており、損害額は78.2%を占めています。出火件数も、総出火件数の61.7%となっており、損害額は76.9%を占めています(別図I-2、別図I-3参照)。

年 季別	平成23年			
	建物火災 件数(件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	構成比 (%)
春季(3月~5月)	22	35.5	118,240	60.1
夏季(6月~8月)	13	21.0	10,204	5.2
秋季(9月~11月)	10	16.1	32,680	16.6
冬季(12月~2月)	17	27.4	35,603	18.1
合計	62	100.0	196,727	100.0

年 季別	平成23年			
	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (千円)	構成比 (%)
春季(3月~5月)	37	34.6	119,838	57.8
夏季(6月~8月)	23	21.5	10,908	5.3
秋季(9月~11月)	18	16.8	37,010	17.9
冬季(12月~2月)	29	27.1	39,560	19.1
合計	107	100.0	207,316	100.0



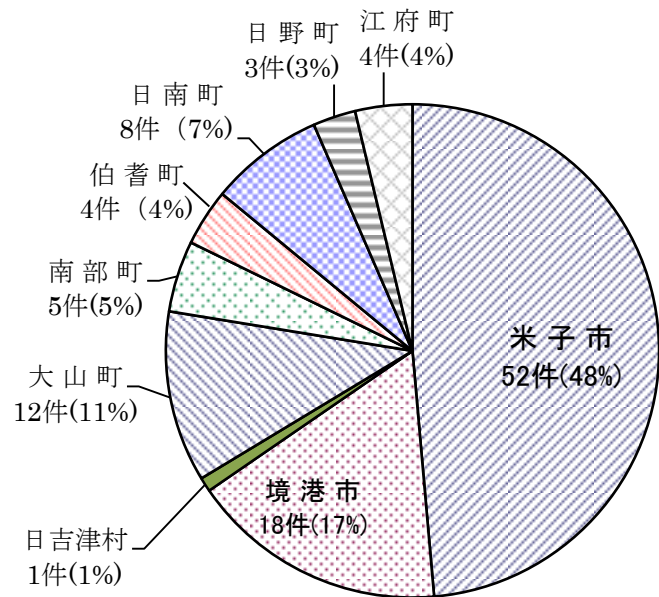
別図 I - 4 市町村別火災件数と構成比

(4) 市町村別火災状況

平成23年中の火災件数を市町村別で見ると、米子市が最も多く52件(48%)、次いで境港市の18件(17%)、大山町の12件(11%)となっています。

日吉津村は、車両火災1件のみで建物火災は発生していません(別図I-4参照)

(市町村別火災概況一覧表の別表I-4、5については文末に添付)



3 火災による死傷者の状況

(1) 火災による死傷者の状況

火災による死者数は7人で、前年に比べ3人(75%)増加し、火災種別では建物火災による死者が6人で、死者の総数に対する比率は85.7%となり、1人は車両火災によるものです。負傷者は13人で前年に比べ13.3%減少しました。

ア 逃げ遅れによる死者、消火中の負傷者が最も多い

死に至った経過は7人のうち4人が逃げ遅れで57.1%を占め、次いで放火自殺2人(28.5%)、経過不明1人(14.4%)となっています。

負傷の発生経過は消火中7人(53.8%)、避難中4人(30.7%)、就寝中・その他がそれぞれ1人となっています。

イ 火災による死者は1月から3月に多く発生

死者発生状況を月別にみると、暖房等の火気を使用する機会が多い1月から3月までの3か月間に年間の火災による死者の71.4%に当たる5人の死者が発生しています。

負傷者の発生状況を月別にみると、1月から3月まで及び12月に多くなっており、負傷者の69.2%に当たる9人の負傷者が発生しています(別表I-3参照)。

別表 I - 3 月別の火災による死傷者発生状況

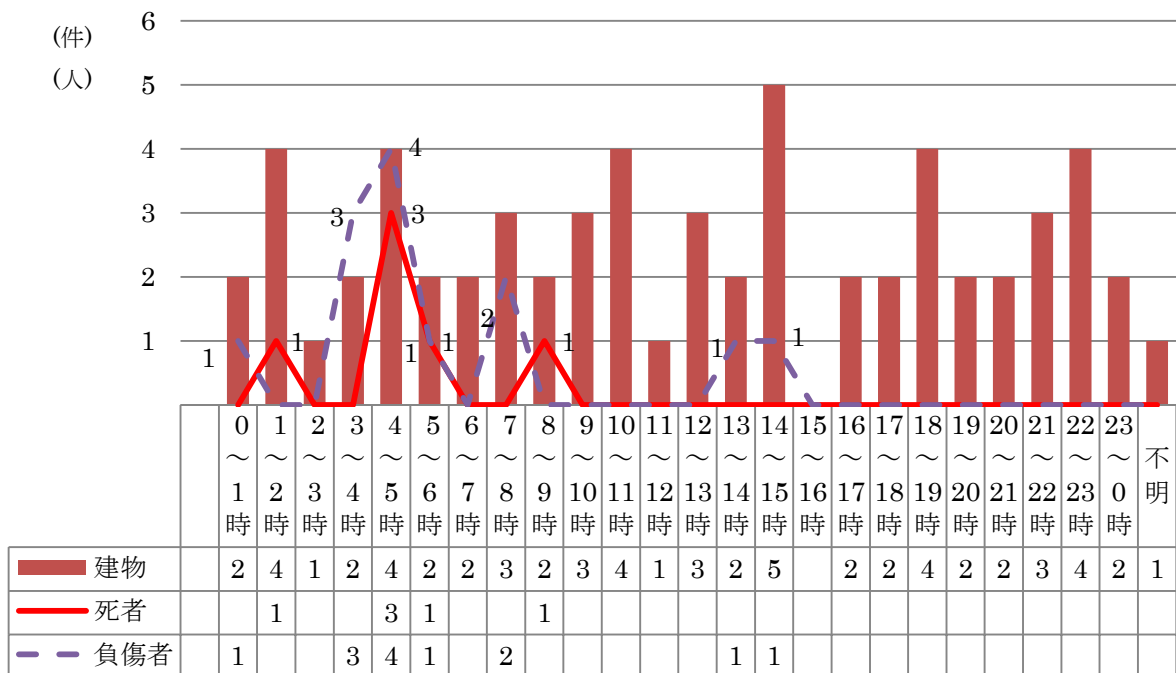
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
死者	3		2		1	1							7
負傷者	3	1	3		2				1	1		2	13

ウ 深夜から早朝の建物火災で死傷者が多く発生

出火時間帯別で建物火災の発生状況と死傷者の発生状況をみると、夜の22時から翌朝6時までの間の建物火災は、全建物火災件数62件のうちの19件(30.6%)ですが、同時時間帯での建物火災による死者は年間建物火災による死者数の83.3%に当たる5人の死者が発生しています。

負傷者も夜の22時から6時までの間に9人(69.2%)発生しています。(別図I-4参照)。

別図 I - 4 時間帯別における建物火災発生状況及び死傷者の発生状況

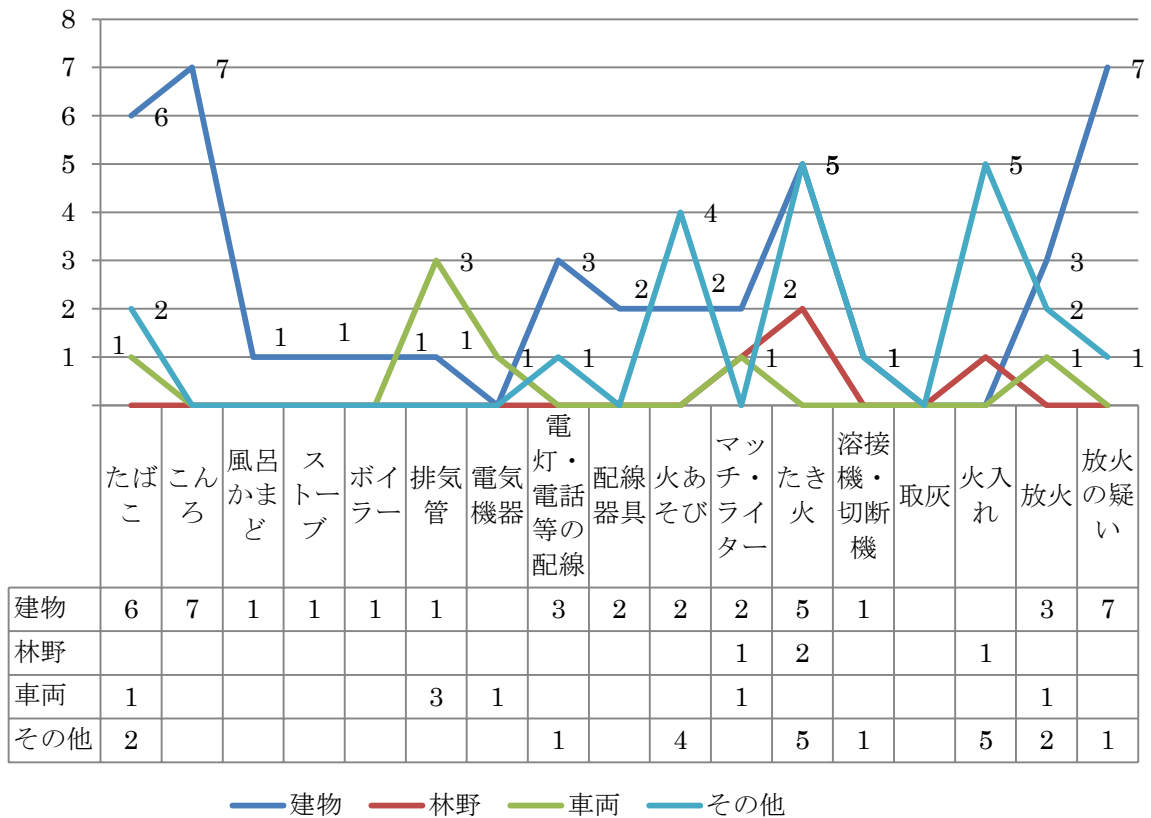


4 出火原因

総出火件数107件のうち出火原因が判明している74件の主な原因をみると、放火又は放火の疑いの合計数が14件（18.9%）、次いで、たき火12件（16.2%）、たばこ9件（12.1%）、こんろ7件（9.5%）となっています。

建物火災の主な原因をみると、放火又は放火の疑いの次に、こんろ・たばこなどで火気の取扱いの不注意や不始末から火災が発生しています（別図I-5参照）。

別図I-5 火災種別ごとの主な火災原因



別表 I - 4

市町村別火災状況

(平成23年1月～平成23年12月)

消防本部名

鳥取県西部広域行政管理組合

消防局

市町村名	火災件数		焼損面積		焼損棟数	り災世帯数	り災人員	死傷者		損害額 (千円)				
	合計	前(年)内件数は	建物	林野				床面積 m ²	表面積 m ²		林野 a	死者	負傷者	
米子市	52	(35)	35		2,072	79		62	31	88	5		8	69,057
境港市	18	(7)	9		429	48		12	9	22	1			10,238
日吉津村	1	(1)		1										69
大山町	12	(15)	4	1	385	38		8	4	11	1		2	24,952
南部町	5	(10)	3	1	388		16	3	2	8				4,540
伯耆町	4	(3)	2		164	5		3	2	6				3,733
日南町	8	(0)	6	1	1,899	5		10	2	7			3	91,140
日野町	3	(2)	1	1	5		3	1	1	3				140
江府町	4	(3)	2	1	155		1	2	1	1				3,447
合計	107	(76)	62	5	5,497	175	21	101	52	146	7		13	207,316
前年同期管内合計	76		49	3	6,947	156	9	87	37	85	4		15	187,017

出火原因 (管内合計)

出火原因	平成23年	平成22年	調査中等
合計	107	76	18
たばこ	9	6	16
こんろ	7	10	17
かまど	0	0	
風呂	1	1	
炉	0	0	
焼却炉	0	1	
ストーブ	1	1	
こたつ	0	0	
ボイラー	1	1	
煙突	0	1	
排気管	4	0	
電気機器	1	2	
電気装置	0	0	
電灯配線	4	1	
内燃機関	0	0	
配線器具	2	0	
火あそび	6	1	
マッチ等	4	1	
たき火	12	7	
溶接機器	2	1	
灯火	0	1	
衝突火花	0	0	
取灰	0	0	
火入れ	6	0	
放火	6	2	
放火疑	8	6	
その他	15	16	

過去5年間の市町村別火災件数

鳥取県西部広域行政管理組合

別表I-5

	平成23年				平成22年				平成21年				平成20年				平成19年				
	合 計	建 物	林 野 両	車 両 船	合 計	建 物	林 野 両	車 両 船	合 計	建 物	林 野 両	車 両 船	合 計	建 物	林 野 両	車 両 船	合 計	建 物	林 野 両	車 両 船	
米子市	52	35	4	13	35	24	2	3	1	5	28	4	22	47	30	9	8	56	37	5	14
境港市	18	9	3	6	7	4	1	2	22	14	8	23	10	13	24	1	15				
日吉津村	1		1		1			1	0					0				0			
大山町	12	4	1	5	2	15	9	6	12	7	1	1	3	12	6	2	1	9	5	2	1
南部町	5	3	1	1	10	7	1	2	1	1				3	3			6	3	2	1
伯耆町	4	2	1	1	3	3			3	2	1	1	3	7	3	3	1	6	4	1	1
日南町	8	6	1	1	0				5	1	2	2		6	5	1		3	3		
日野町	3	1	1	1	2	1		1	0					0				4	3	1	
江府町	4	2	1	1	3	1		1	3	1	1	1	1	5	4	1		2	2		
合 計	107	62	5	14	76	49	3	6	1	17	100	54	8	34	103	61	3	110	65	5	31

II 救急概況

(平成23年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

平成23年中の救急出動件数は、前年に比べて853件増の9,828件、搬送人員は726人増の9,221人で、過去最多の救急件数となりました。
(別図Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3参照)

2 市町村別救急活動状況

救急出動件数、救急搬送人員ともに増加しましたが江府町は減少しました。米子市は過去最多の件数となりました。

(別図Ⅱ-4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が4,513人(48.9%)で最も多く、次いで軽症が3,320人(36.0%)となっています。

(別図Ⅱ-5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が5,336人(57.9%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ-6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ3,457件(35.2%)、3,149人(34.2%)と最も多くなっています。

(別図Ⅱ-7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出動件数は、1月が991件(10.1%)、続いて8月の890件(9.1%)となっています。

搬送人員は、1月が915人(9.9%)で最も多く、続いて12月の847人(9.2%)となっています。

(別図Ⅱ-8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分42秒で前年より15秒の遅延、平均収容所要時間は36分4秒で前年より2分32秒遅延しました。

(別図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者255人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、131人(51%)でした。

(別図Ⅱ-11参照)

9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者255人のうち187人が救急救命士による高度救命処置を受け、そのうち20人に回復が見られました。

(別図Ⅱ-12、Ⅱ-13参照)

10 救急講習件数の推移

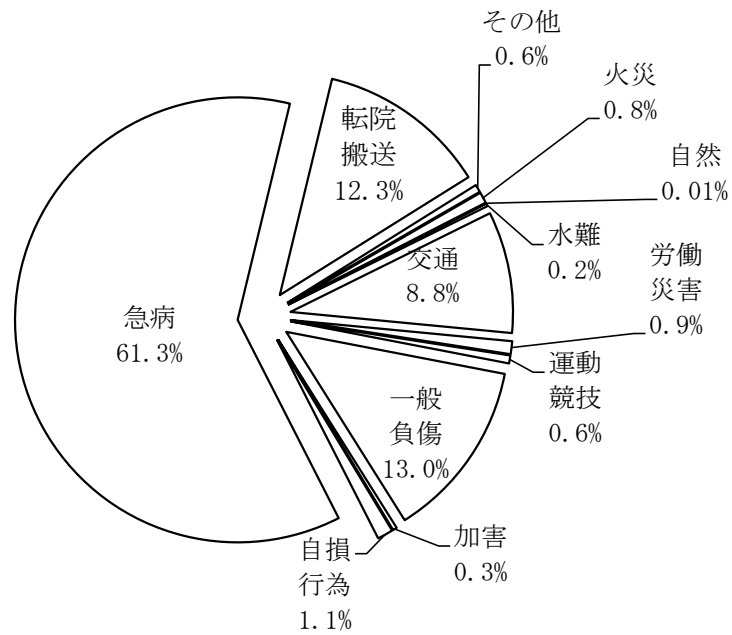
救急講習には、毎年約10,000人の方が受講され、圏域住民の応急手当に対する意識の高さがうかがえます。

(別図Ⅱ-14、Ⅱ-15、別表Ⅱ-1参照)

11 市町村別救急活動の推移

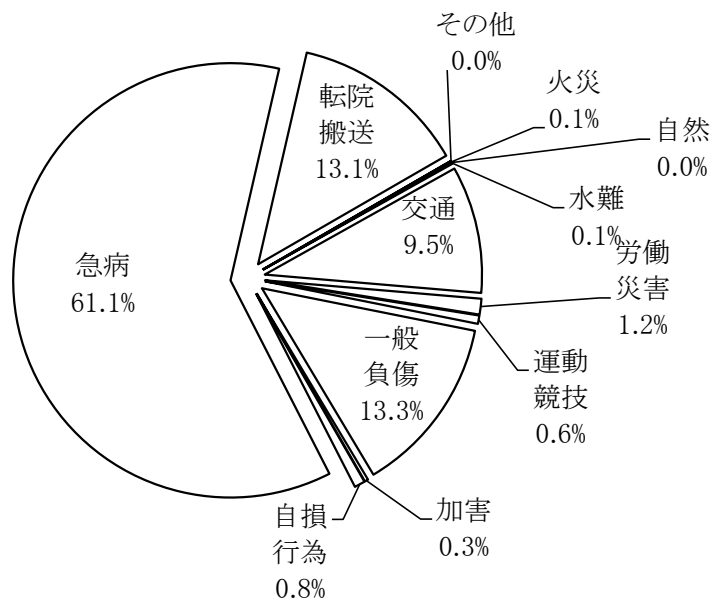
(別表Ⅱ-2参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出動状況



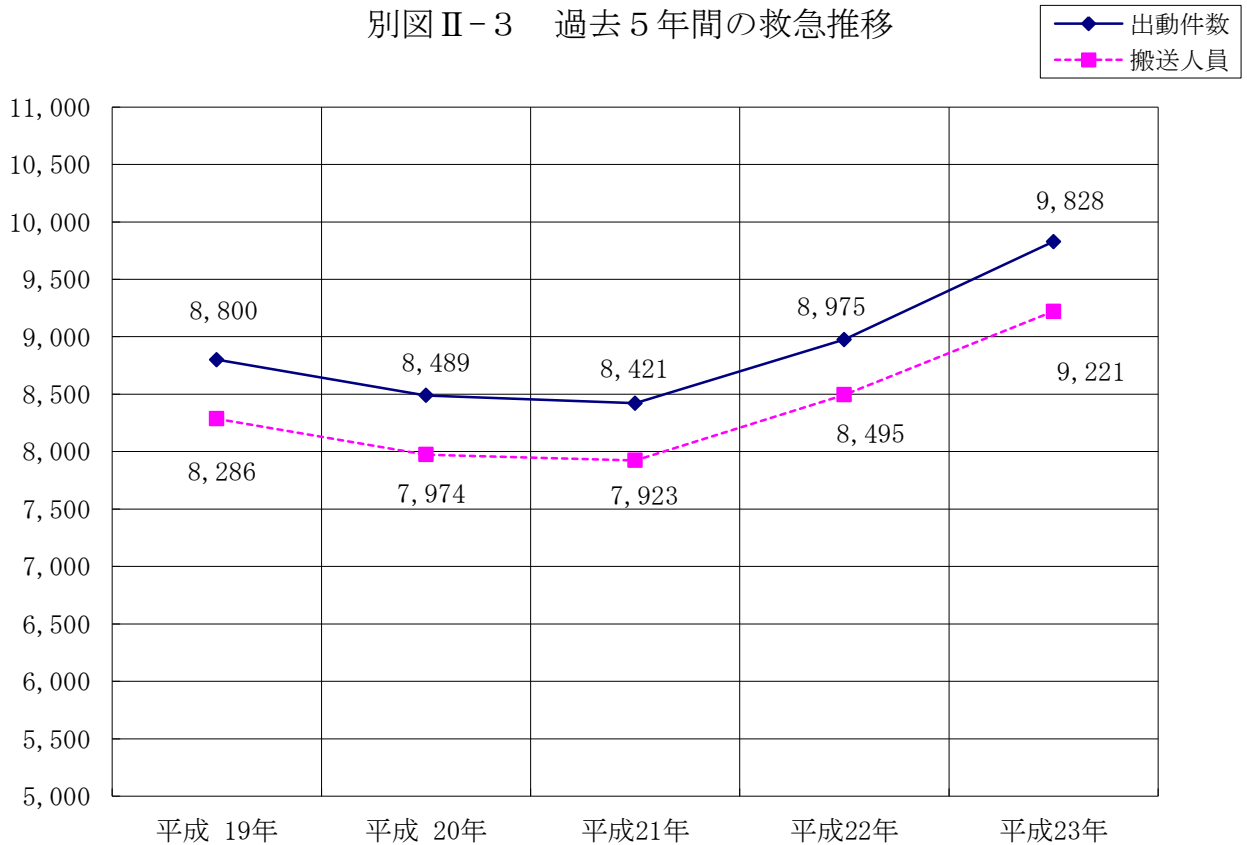
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	79	1	20	868	92	57	1,281	29	112	6,022	1,212	55	9,828

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

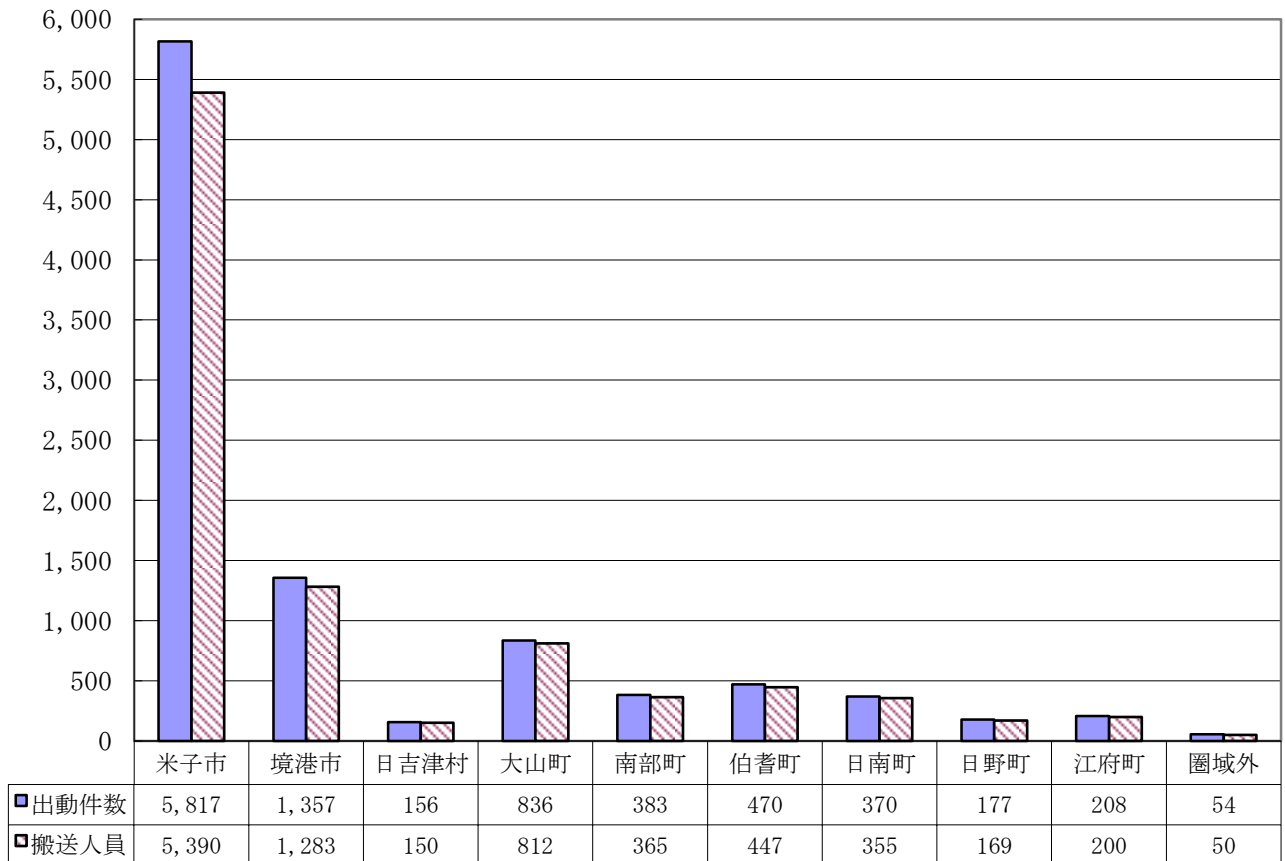


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	12	0	8	873	108	57	1,225	24	73	5,636	1,205	0	9,221

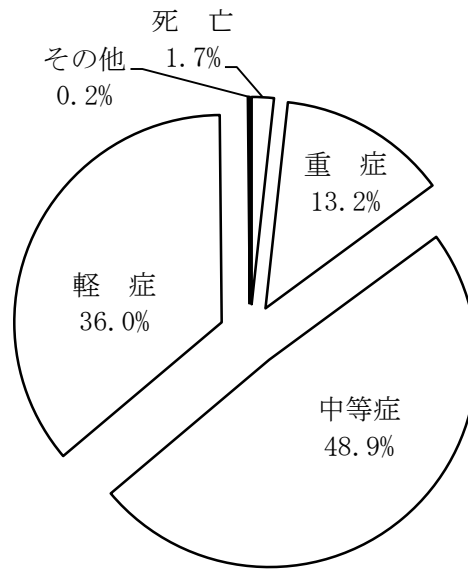
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

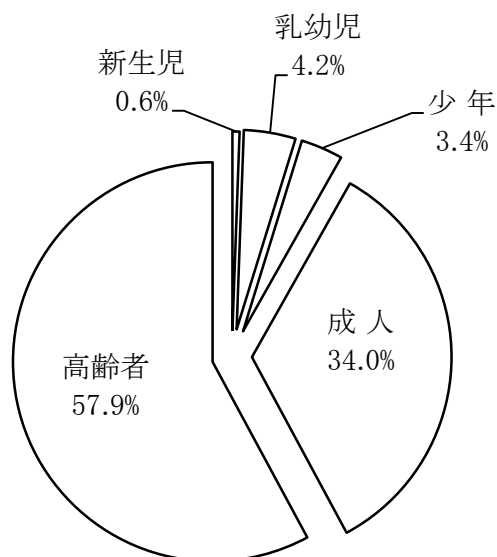


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



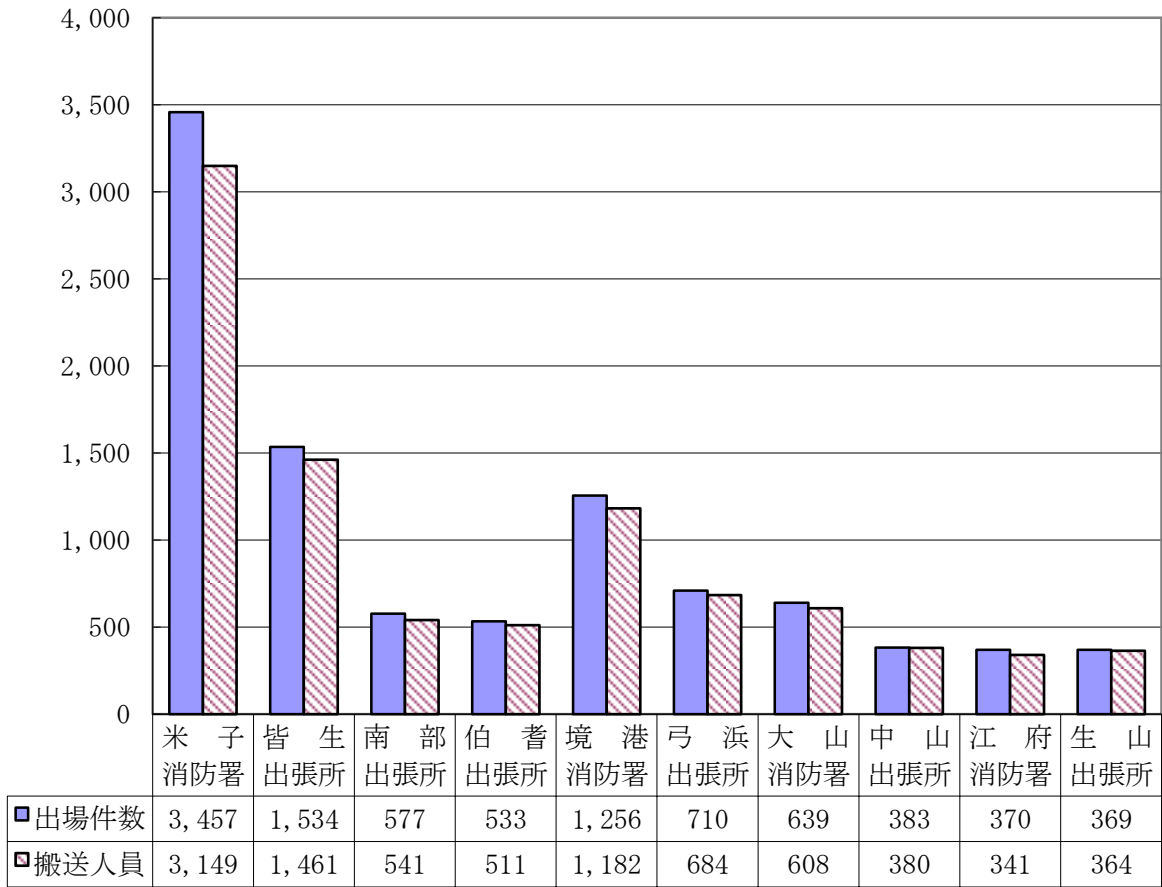
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	159	1,215	4,513	3,320	14	9,221

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

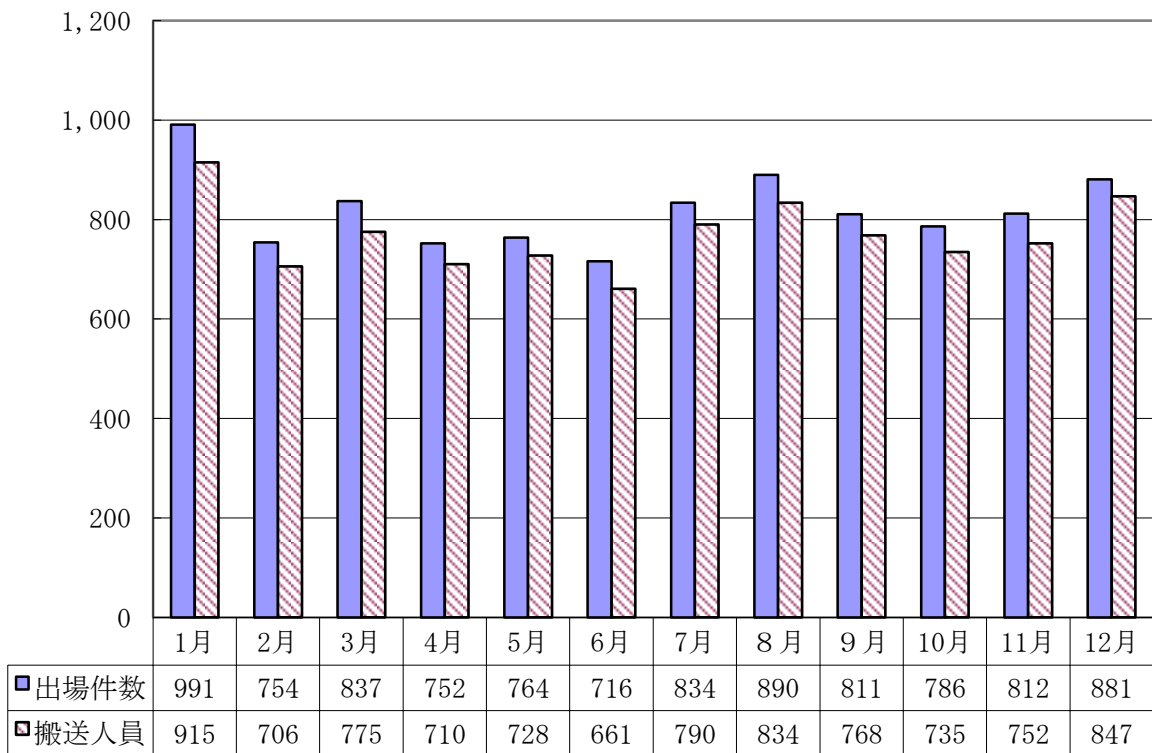


	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計
搬送人員	53	387	314	3,131	5,336	9,221

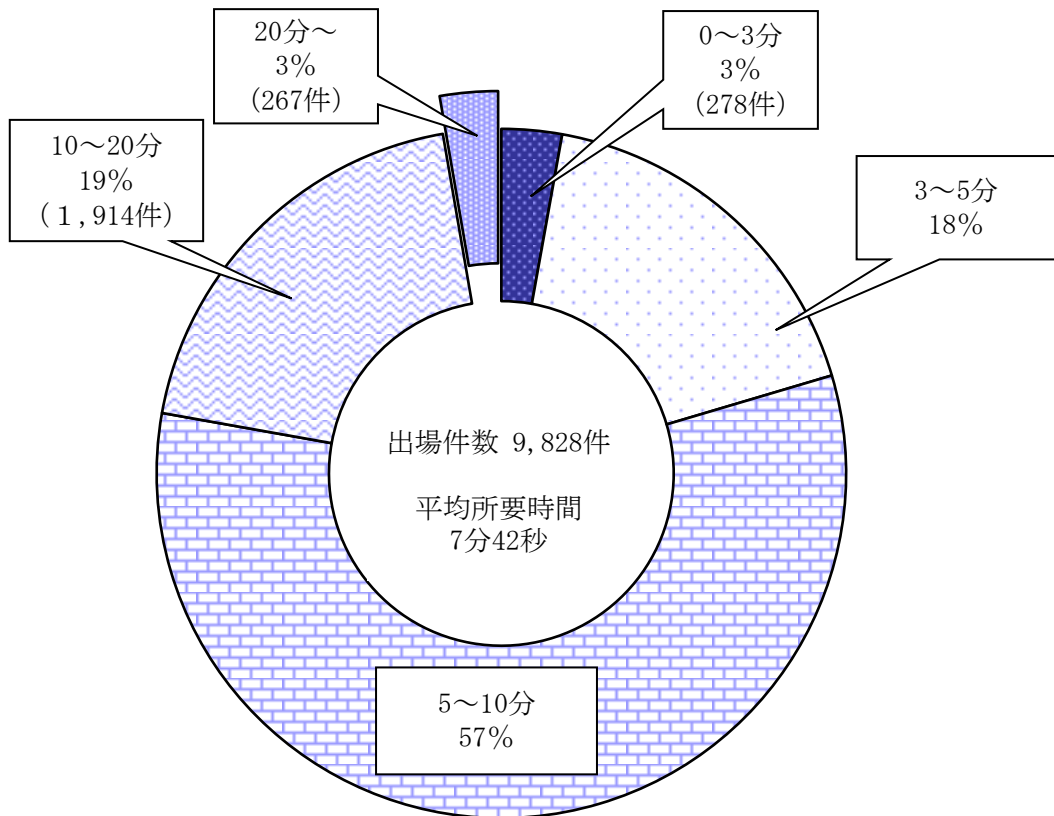
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



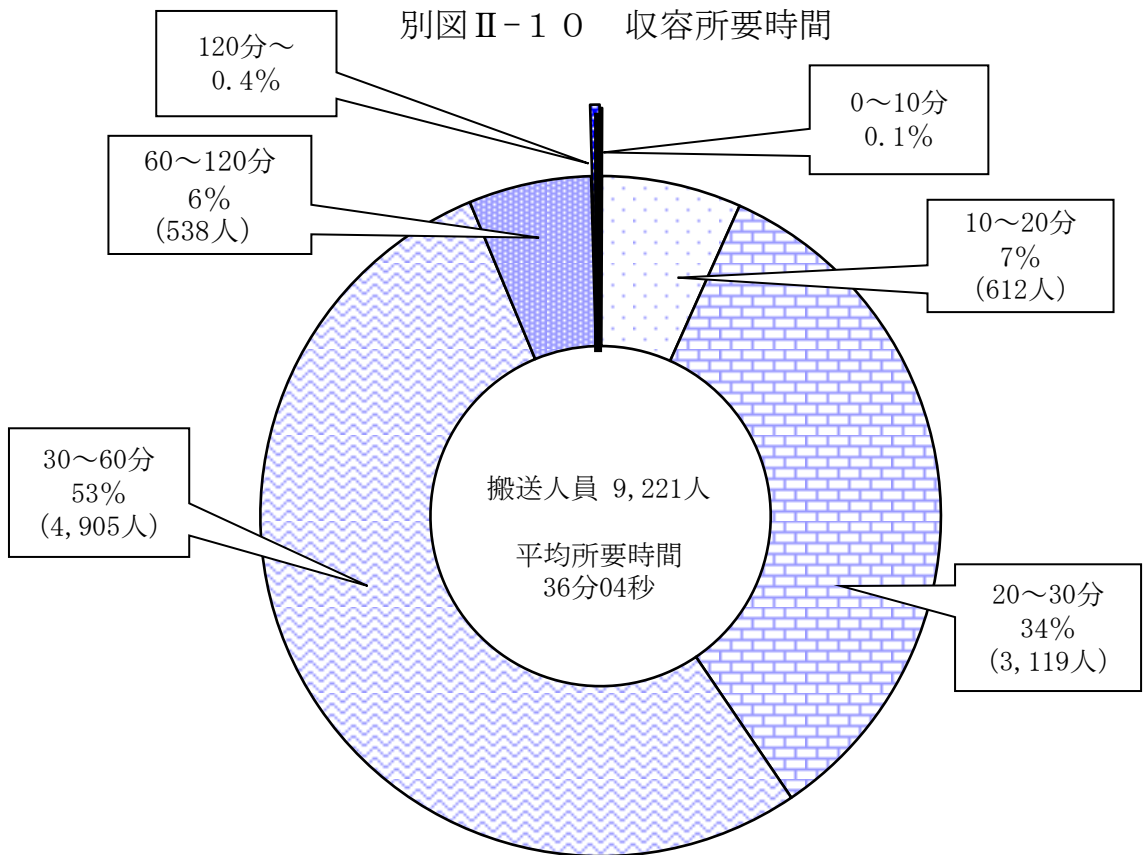
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



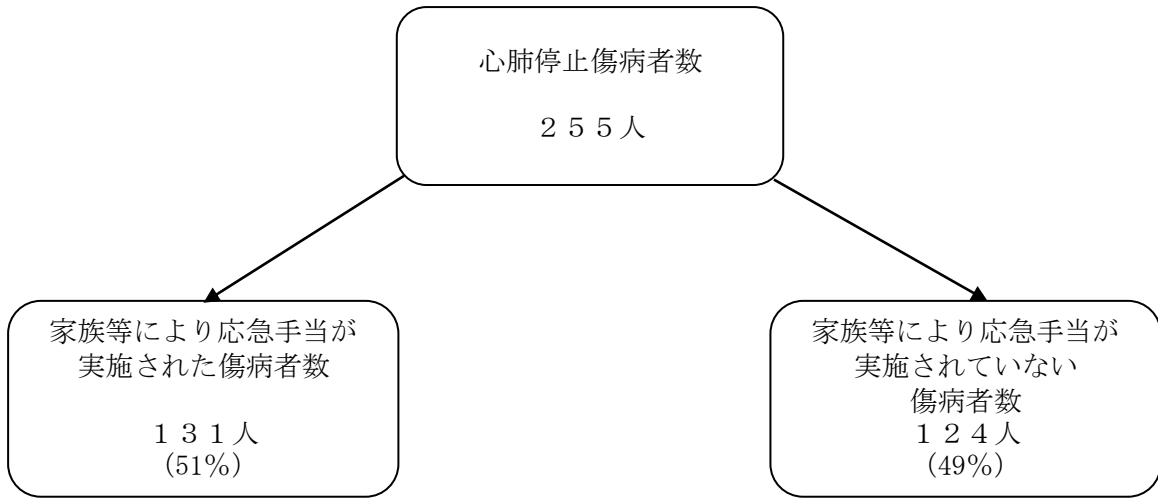
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



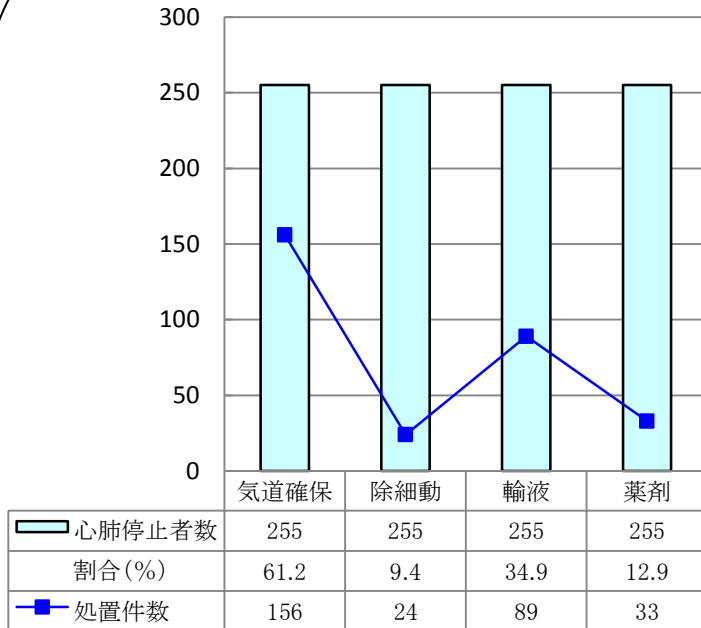
別図Ⅱ-10 収容所要時間



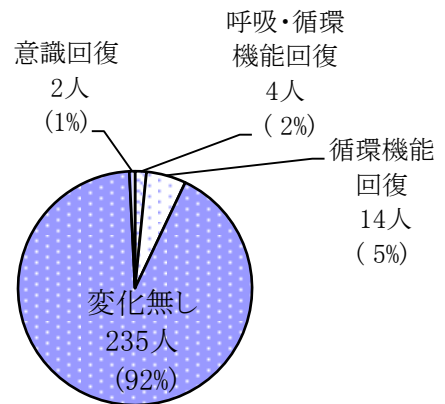
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



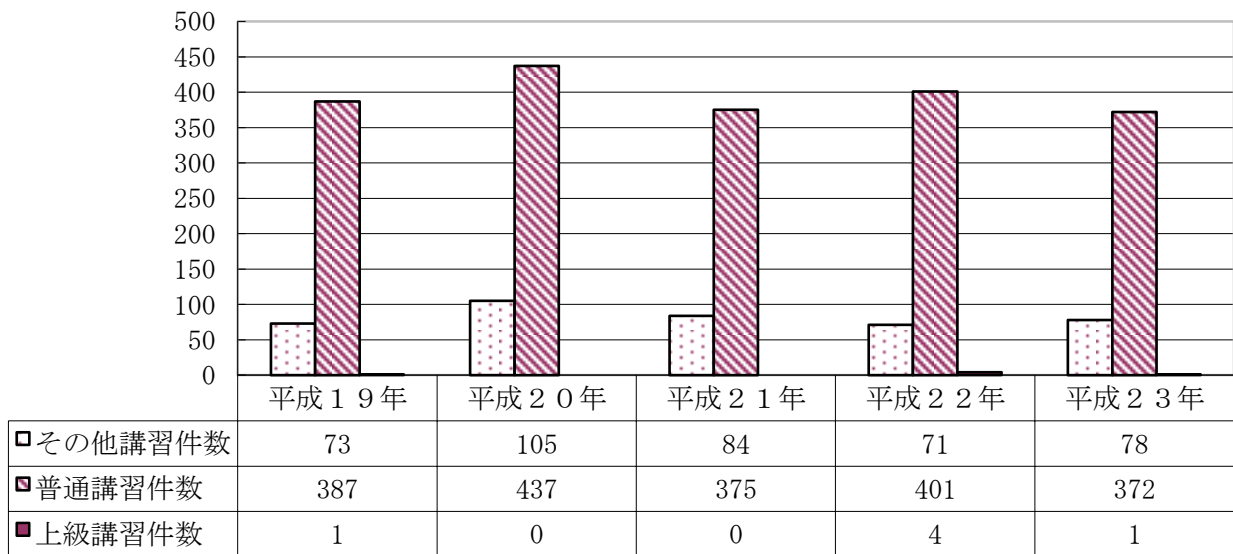
別図Ⅱ-12
高度救命処置状況



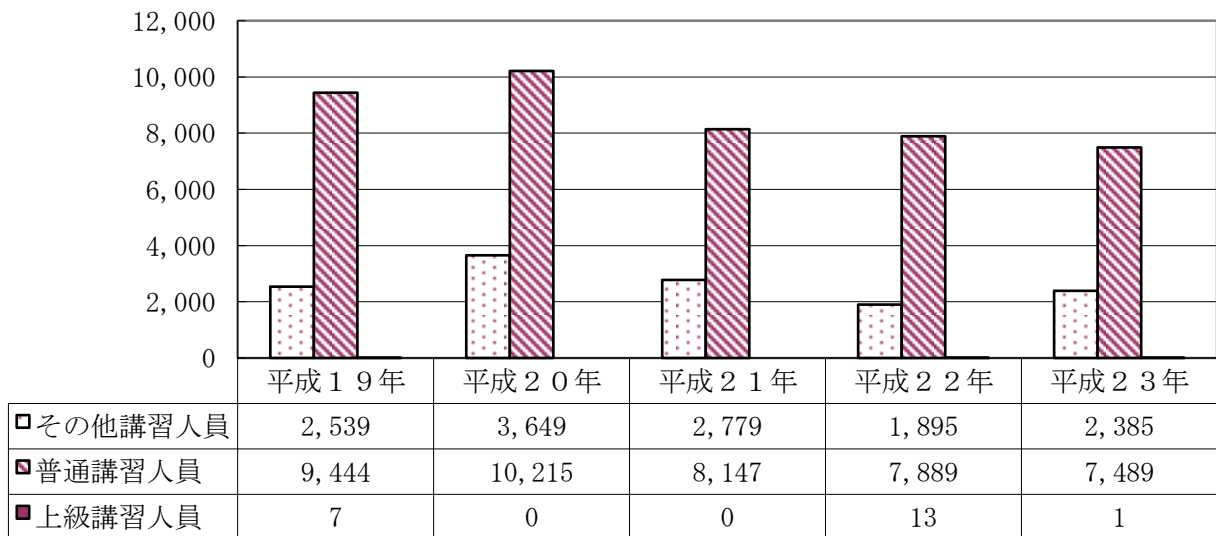
別図Ⅱ-1 3
医師引き継ぎ時の状況



別図Ⅱ－１４ 過去５年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－１５ 過去５年間の救急講習人員推移



別表Ⅱ－１ 応急手当指導員・普及員の養成

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
応急手当指導員	11	16	0	0	0
応急手当普及員	0	21	15	0	1

別表Ⅱ－2 過去5年間の市町村別救急件数

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
米子市	5,155	4,925	5,019	5,407	5,817
境港市	1,223	1,207	1,105	1,143	1,357
日吉津村	121	130	120	145	156
大山町	745	697	711	729	836
南部町	323	299	304	319	383
伯耆町	458	443	395	456	470
日南町	317	365	351	362	370
日野町	213	189	168	204	177
江府町	203	202	225	179	208
圏域外	42	32	23	31	54
合計	8,800	8,489	8,421	8,975	9,828
	8,286	7,974	7,923	8,495	9,221

Ⅲ 救助概況

(平成23年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は159件あり、そのうち交通事故が65件(40.9%)、火災が38件(23.9%)、その他の事故が22件(13.8%)、水難事故が13件(8.2%)、風水害等自然災害が12件(7.5%)、建物等による事故が6件(3.8%)、機械による事故が3件(1.9%)等の順となっています。

(別図Ⅲ—1参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は106件あり、そのうち火災が38件(35.8%)、交通事故が37件(34.9%)、その他の事故が14件(13.2%)、水難事故が8件(7.5%)、風水害等自然災害が4件(3.8%)、建物等による事故3件(2.8%)、機械による事故2件(1.9%)等の順となっています。

(別図Ⅲ—2参照)

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は86人あり、そのうち交通事故が41人(47.7%)と最も多く、次いでその他の事故が15人(17.4%)、風水害等自然災害11人(12.8%)、水難事故が7人(8.1%)、火災等による事故が7人(8.1%)、建物等による事故3人(3.5%)、機械による事故が2人(2.3%)等となっています。

(別図Ⅲ—3参照)

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が85件(53.4%)と最も多く、次いで境港消防署が32件(20.1%)、江府消防署が24件(15.1%)、大山消防署が17件(10.7%)の順となっています。

(別図Ⅲ—4参照)

5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数72件(45.3%)、次いで境港市が24件(15.1%)、大山町が15件(9.4%)、日南町が12件(7.5%)、等の順となっており、他米子道、山陰道、管轄外へも出動しています。

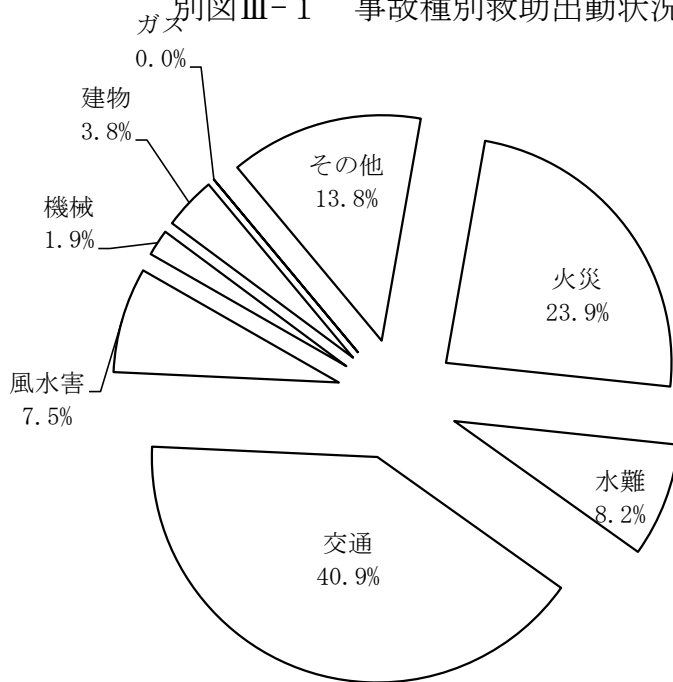
(別図Ⅲ—5参照)

6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、9月が26件(16.4%)と最も多く、次いで1月が18件(11.3%)、3月・4月が15件(9.4%)等の順となっています。

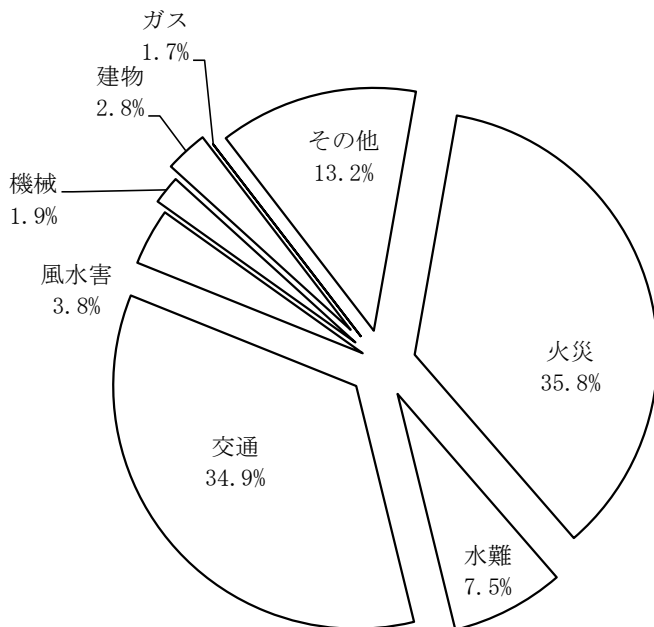
(別図Ⅲ—6参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況



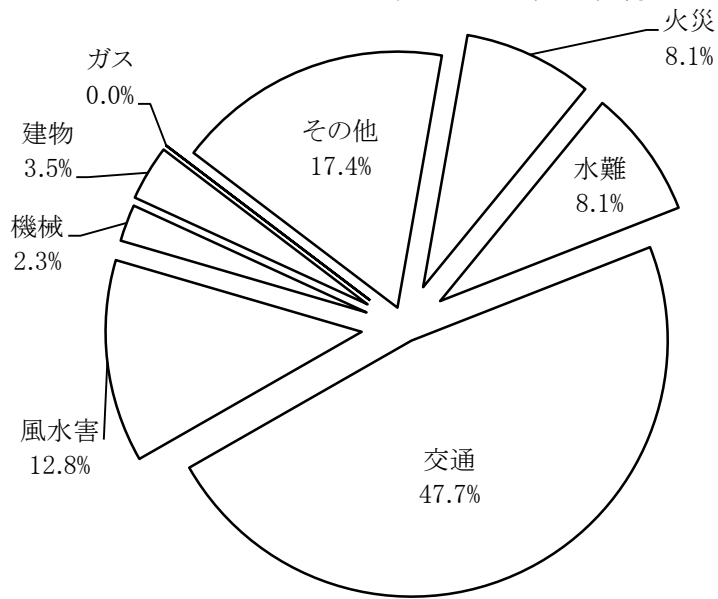
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	38	13	65	12	3	6	0	0	22	159

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



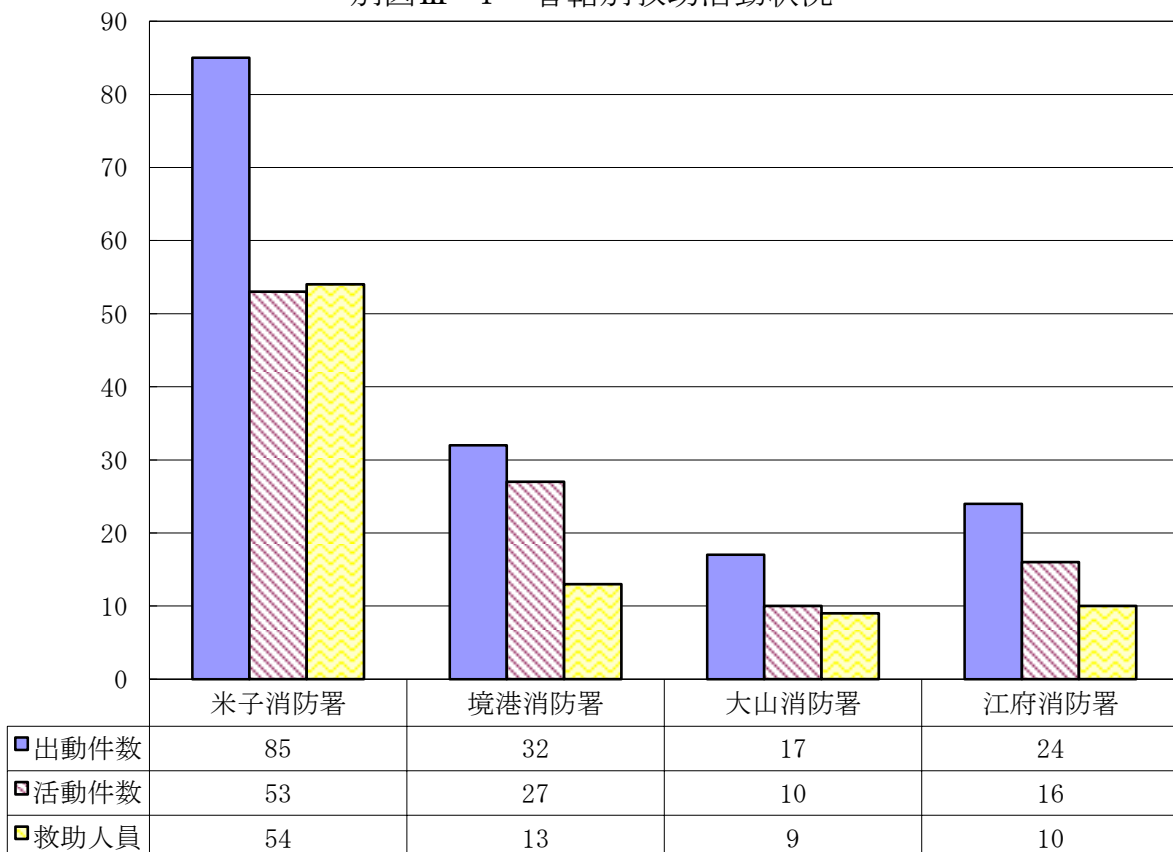
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	38	8	37	4	2	3	0	0	14	106

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

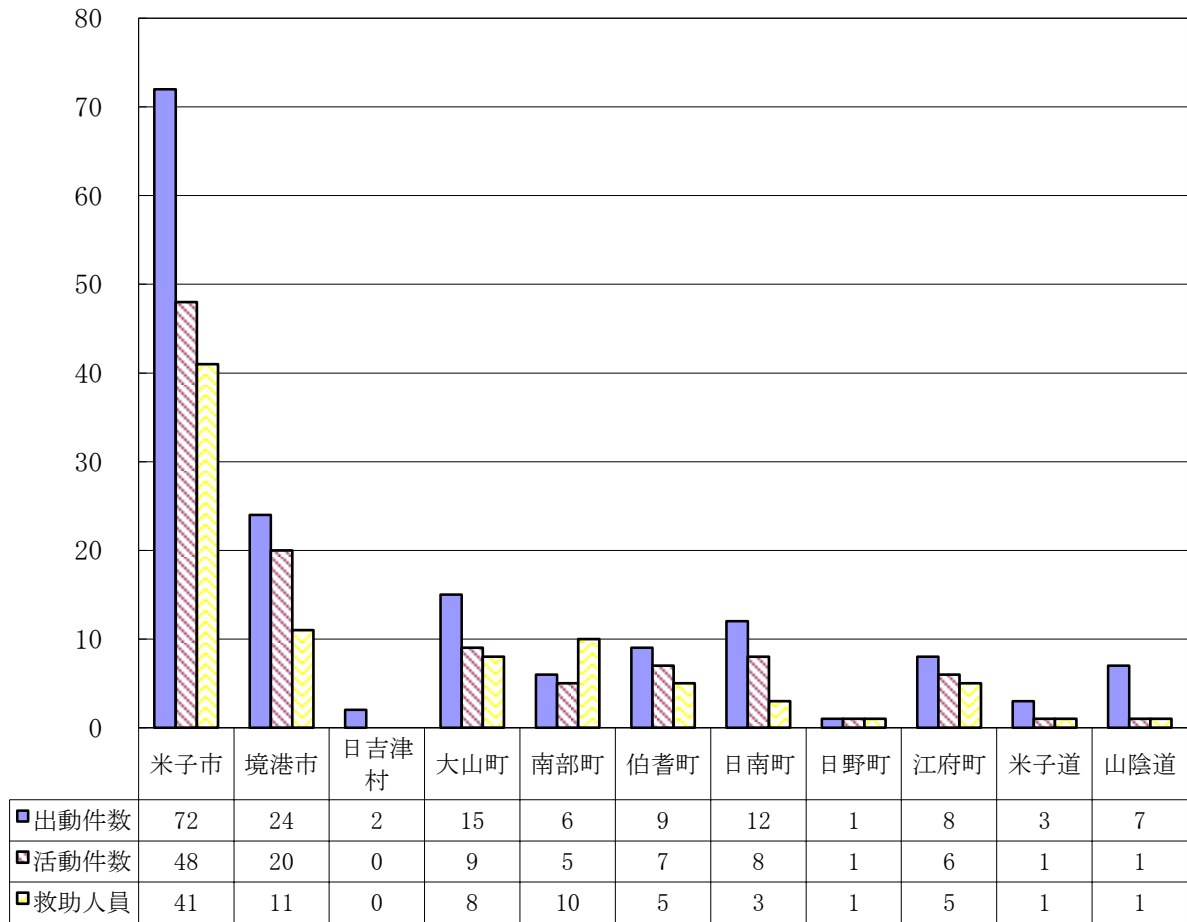


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	7	7	41	11	2	3	0	0	15	86

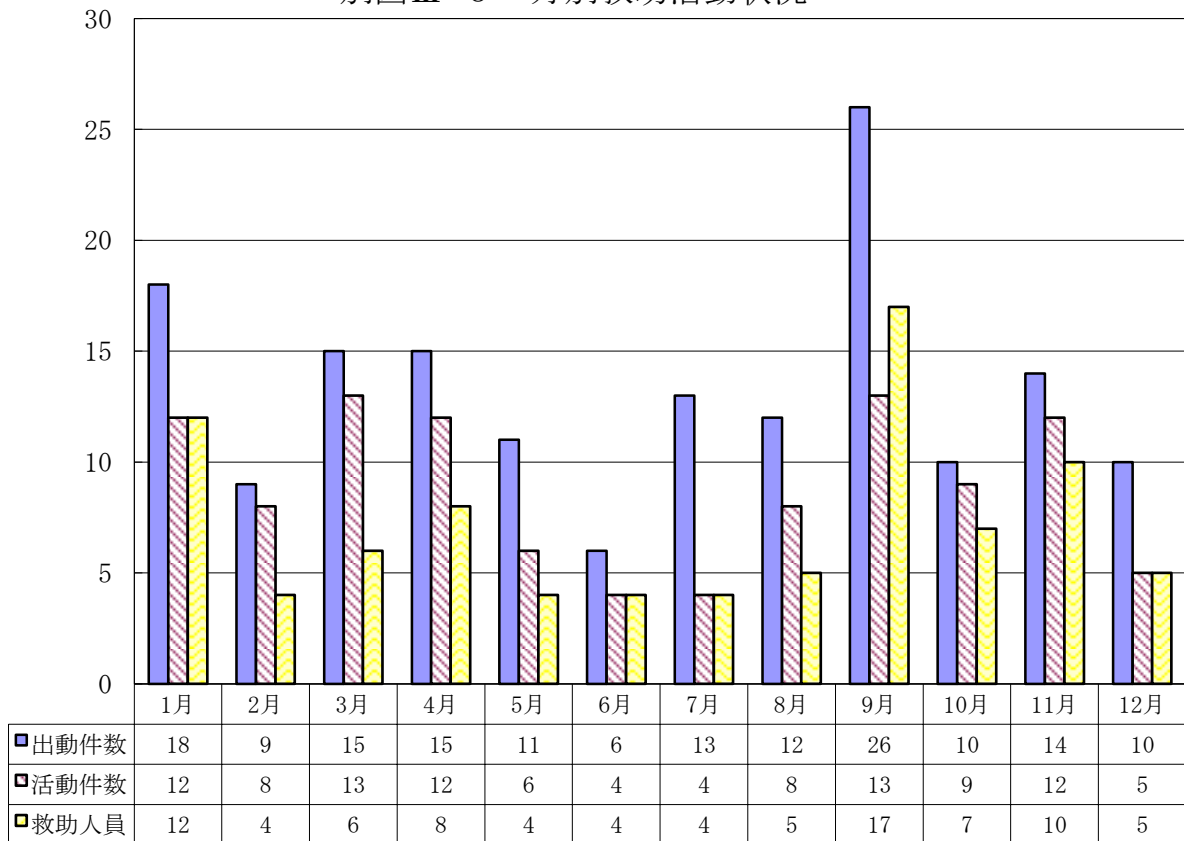
別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



別図Ⅲ-6 月別救助活動状況



IV 119番着信概況

(平成23年1月～12月)

1 着信件数の推移

平成23年中の119番通報は、総着信件数13,715件で昨年に比べて993件(7.8%増)多くなっています。1ヶ月平均にすると約1,143件、1日平均では約38件の着信となります。通報種別としては、救急が最も多く9,435件(68.8%)でした。火災は300件(2.2%)、その他の通報としては、救助57件(0.4%)、警戒116件(0.8%)、間違い693件(5.1%)、通報訓練等1,651件(12.0%)、休日・夜間などの病院に関する問い合わせ等1,301件(9.5%)となっており、悪戯と思われるものが162件(1.2%)でした。

(別表IV-1参照)

2 月別の着信状況

月別で着信件数の最も多かったのは1月の1,487件で、これは年末年始にかけての豪雪が影響しているものと考えられます。逆に最も少なかったのは6月の980件でした。救急通報では、最も多かったのは1月の979件、逆に最も少なかったのは6月の684件で、月平均約786件でした。火災通報では、最も多かったのは4月の46件、逆に最も少なかったのは6月の8件で、月平均約25件でした。

(別表IV-2参照)

3 電話種別による通報状況

近年、携帯電話、IP電話からの通報が年々増加傾向を示しています。災害別に電話種別による通報状況をみると、火災、救助、警戒など衆人に発見されやすいものについては携帯電話での通報比率が高く、救急など屋内での発生が多いものについては固定電話(IP電話含む)での通報比率が高くなっています。

(別表IV-3、IV-4参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は4,157件で、全着信件数の約30%でした。隣接の松江市や安来市などの管轄地区以外からの携帯電話による通報を、他の消防機関へ転送処理した件数は59件で、逆に他の消防機関から転送受信した件数は16件ありました。

(別表IV-3、IV-4、IV-5、IV-6参照)

5 時間帯別119番通報の着信状況

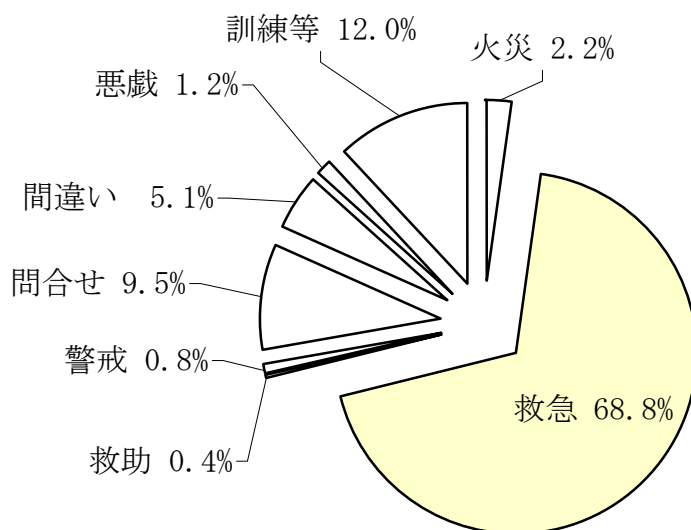
時間帯別に119番通報の着信比率を見ると、一般的な活動時間帯(午前8時～午後9時)では全体の77.7%で、睡眠時間帯(午後10時～午前7時)では22.3%でした。

(別図IV-7参照)

別表Ⅳ－1 119番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
平成19年	222	8,488	71	106	1,063	927	100	1,186	12,163
平成20年	192	8,162	53	107	1,054	877	147	1,225	11,817
平成21年	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809
平成22年	159	8,663	54	102	1,206	769	107	1,662	12,722
平成23年	300	9,435	57	116	1,301	693	162	1,651	13,715

平成23年 119番着信状況

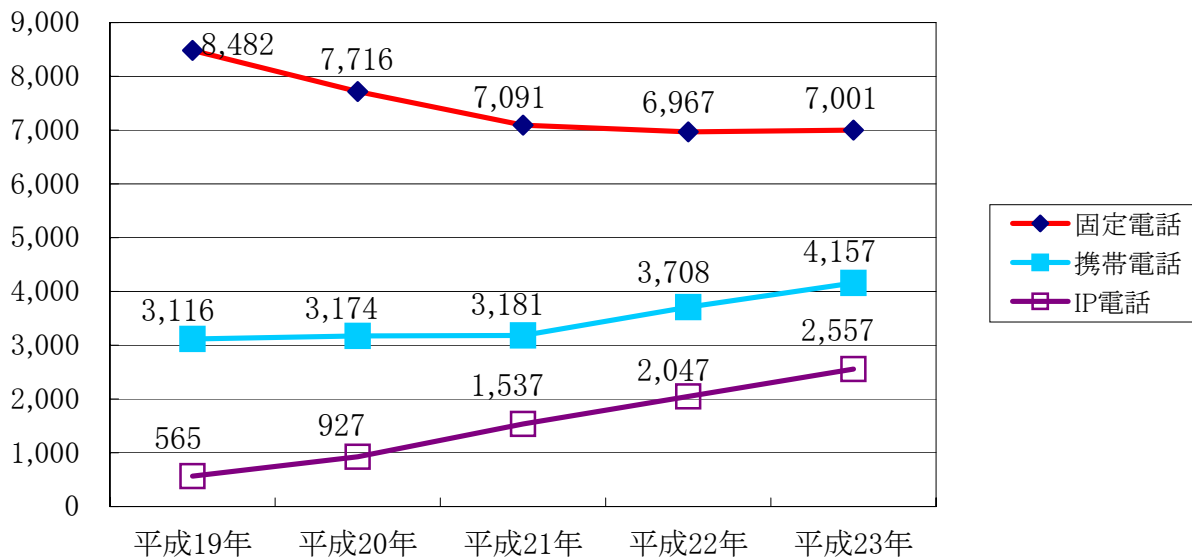


別表Ⅳ－2 月別119番着信状況

	火災	救急	救助	警戒等	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
1月	23	979	4	17	295	66	14	89	1,487
2月	20	715	2	1	87	52	20	132	1,029
3月	35	784	5	1	100	64	25	181	1,195
4月	46	734	3	2	106	58	8	122	1,079
5月	29	751	2	4	89	55	19	148	1,097
6月	8	684	4	7	74	62	14	127	980
7月	30	800	4	12	87	56	8	113	1,110
8月	41	859	4	13	123	67	14	89	1,210
9月	18	757	9	32	104	57	8	127	1,112
10月	23	770	7	12	81	45	7	129	1,074
11月	17	780	6	12	65	53	14	262	1,209
12月	10	822	7	3	90	58	11	132	1,133
合計	300	9,435	57	116	1,301	693	162	1,651	13,715
月平均	25.0	786.2	4.8	9.7	108.4	57.7	13.5	137.6	1,142.9

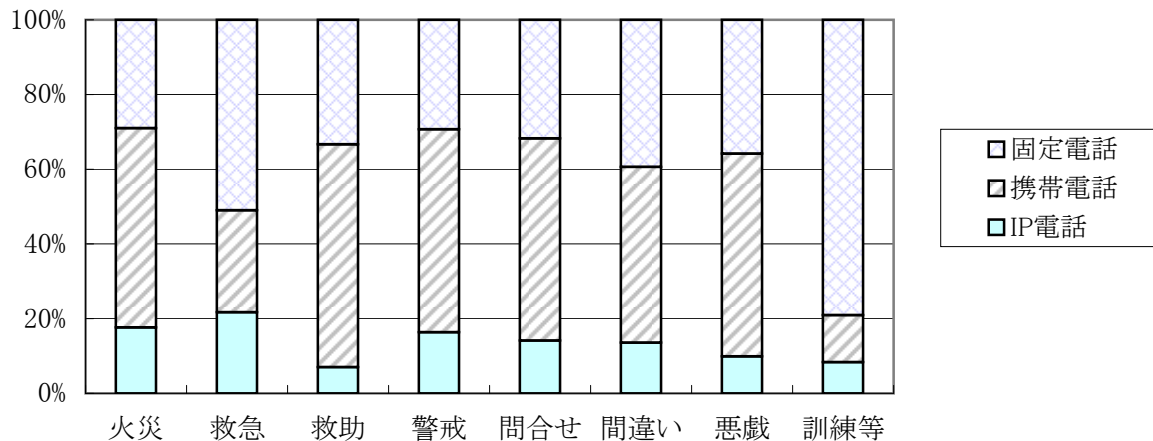
別表IV-3 電話種別による119番着信件数の推移

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
固定電話	8,482	7,716	7,091	6,967	7,001
携帯電話	3,116	3,174	3,181	3,708	4,157
IP電話	565	927	1,537	2,047	2,557
合計	12,163	11,817	11,809	12,722	13,715



別表IV-4 電話種別による通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
固定電話	87	4,812	19	34	413	273	58	1,305	7,001
携帯電話	160	2,574	34	63	704	326	88	208	4,157
IP電話	53	2,049	4	19	184	94	16	138	2,557
合計	300	9,435	57	116	1,301	693	162	1,651	13,715



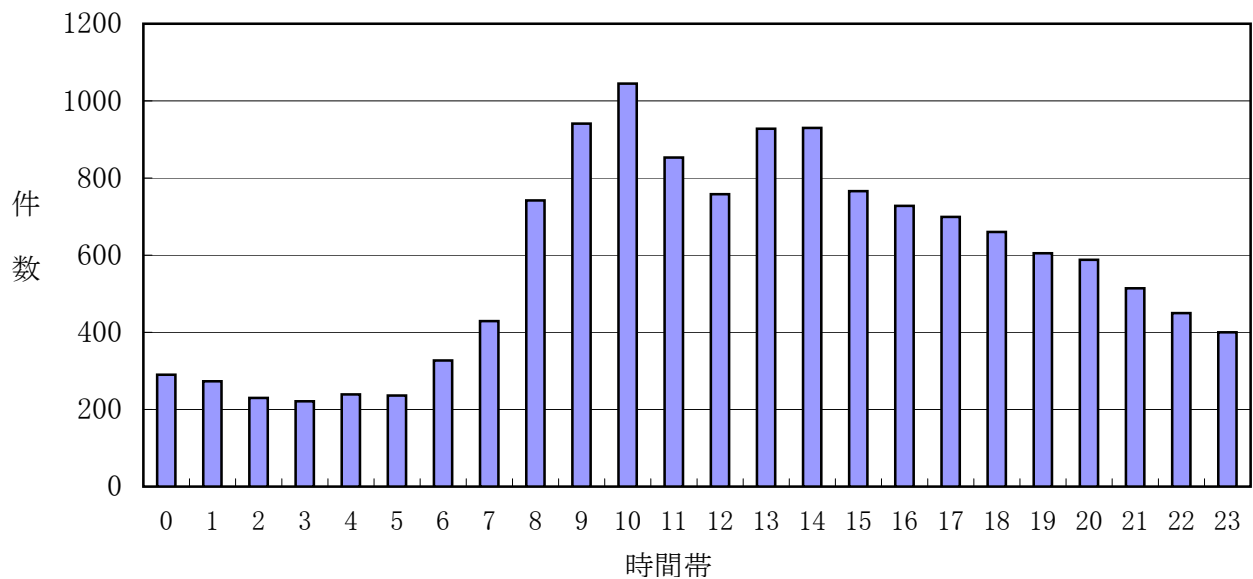
別表Ⅳ－5 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に転送をした件数
直接通報を受けた件数	他の消防機関から転送受信した件数	総着信件数	
4,141	16	4,157	59

別表Ⅳ－6 携帯電話の消防機関別転送状況

他の消防機関から転送を受信した件数					他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計	消防	火災	救急	その他	合計
松江		6		6	松江	1	31	2	34
安来		3		3	安来	2	9	2	13
雲南					雲南		1		1
東部					東部		2		2
中部		5	2	7	中部		7		7
新見					新見		1		1
真庭					真庭		1		1
津山					津山				
備北					備北				
合計		14	2	16	合計	3	52	4	59

別図Ⅳ－7 時間帯別着信状況



消したはず 決めつけしないで もう一度

平成23年度全国統一防火標語

火災情報テレホンガイド 0859-22-0119

防火・救急に関するご相談・お問い合わせ

お気軽に最寄りの消防署・出張所へどうぞ

名 称	所 在 地	郵便番号	電 話 番 号
消 防 局	米子市両三柳5452番地	683-0853	0859-35-1951
米子消防署	米子市富士見町一丁目103番地1	683-0055	0859-39-0251
米子消防署皆生出張所	米子市皆生五丁目8番5号	683-0003	0859-39-0253
米子消防署南部出張所	西伯郡南部町清水川3番地1	683-0321	0859-39-6003
米子消防署伯耆出張所	西伯郡伯耆町溝口20番地4	689-4201	0859-39-9001
境港消防署	境港市中野町2116番地	684-0041	0859-47-0119
境港消防署弓浜出張所	米子市大篠津町2913番地1	683-0101	0859-48-2005
大山消防署	西伯郡大山町末吉403番地2	689-3331	0859-39-5002
大山消防署中山出張所	西伯郡大山町長野880番地3	689-3132	0858-49-3001
江府消防署	日野郡江府町武庫1390番地3	689-4411	0859-77-2001
江府消防署生山出張所	日野郡日南町生山349番地1	689-5211	0859-77-1001

※本概況に関するお問い合わせは下記にお願いします。

火災…………… 予防課予防係	0859-35-1954
救急救助…………… 警防課救急救助係	0859-35-1959
119番着信状況…指令課指令係	0859-35-1960

平成24年2月発行

〒683-0853 米子市両三柳5452番地
鳥取県西部広域行政管理組合消防局
TEL 0859-35-1951(代)